

同窓会だより

編集・発行

大阪市住吉区杉本3-3-138

TEL 06(607)8373

FAX 06(605)2769

発行人 廣岡 孝一

平成9年大学祭時に、キャンパス交流会を開催

1997年(平成9年)の母校の大学祭(銀杏祭)期間中の11月1日(土)、杉本キャンパスに新設された学術情報総合センターにて、初めてのキャンパス交流会(講演会と懇親会)が開催された。

当日は、午後4時からの講演会で播口正雄会員の「カーナビとITS」および、中野秀男教授の「インターネット入門」を聴講し、午後6時からの懇親パーティでは60名余りの参加者が約2時間の歓談で親睦を深めると共に、お互いに同窓の絆を強め合った。

このキャンパス交流会は、懐かしい大学祭で会員相互の交流と親睦をより促進する趣旨から、昨年初めて試みられた新しい工学部同窓生の集いであり、より多くの会員の参加が望まれる。

★本年10月31日(土)に、“第2回キャンパス交流会”

今年の大学祭(銀杏祭)期間中の、10月31日(土)の午後2時30分～午後6時に、“第2回キャンパス交流会(講演会と懇親会)”を催します。

★来春2月5日(金)に、“同窓懇親パーティ1999”

来春2月5日(金)、第11回評議員会の終了後、午後6時40分～午後8時30分に、新阪急ビル・スカイルームで恒例の“同窓懇親パーティ1999”を催します。

**クラスの友人や、職場の同窓生と、
誘い合わせてご参集下さい。**

(詳細案内は、20ページを参照)

目次

同窓生の集い(報告と案内)……………1	学科の近況と会員短信(応物)……………10
廣岡会長・西村新工学部長の挨拶……………2	〃 (情報)……………11
今春ご定年の恩師からの寄稿……………3	〃 (生応化)……………12
学科の近況と会員短信(機械)……………4	平成10年学部卒業生・大学院修士生名簿 ……13
〃 (電気)……………5	〃 学部・大学院入学生名簿……………15
〃 (応化)……………6	同窓会事務局年報・桜植栽募金……………18
〃 (建築)……………7	工学部電話帳・新評議員名簿・編集後記 ……19
〃 (土木)……………9	交流会と懇親パーティの詳細案内……………20

同窓会会長 廣岡孝一



工学部同窓会の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。今年の梅雨は8月に入ってもなお日本海の前線が南下を繰返し、梅雨明けが3度にわたる長丁場となりましたが、気温の方は早くも6月に30℃を越す日がある一方で、台風が発生せず、例年とはいささか様相が異なっております。このはっきりしない気象の様子はあたかも現在の社会・経済状況を映しているように感じられます。

大戦後50年、日本は経済成長を指標として効率最優先で工学・技術を進展させ、巨大資本を動かして世界の先進国へ仲間入りしてきました。ついこの間まで日本は最大の債権国で最先端工業技術をもち、世界平和をリードする模範国かと思われてきました。ところが東西対立構造の下で培われてきた社会・経済体制は、冷戦の終焉とともに各所で制度疲労を起し、体制の大転換を余儀なくされてきたのであります。

既に90年代の初めから、転換期に差しかかっていることが、識者から盛んに指摘されておりましたのに、幸か不幸か日本は平和ボケしておりましたので、考え方の切替えが遅れたのではないのでしょうか。欧米ではもう、転換の仕上げ期に入っているように思いますが、日本では政界のみならず、優等生と思われてきた経済界でさえ構造改革に手を焼き、金融界の混沌から未だに抜け出せないでおります。このところ急に日本の危機が叫ばれてきたのは、転換に乗り遅れたからではないでしょうか。

小渕内閣の誕生は、選挙制度等の欠陥もありますが、やはり国民の総意の反映と受け取らざるを得ません。私達は21世紀を目前にしてこれからは、いよいよ転換の仕上げ段階に入っていくことになるでしょう。暫らくはなお理解に苦しむような社会・経済現象が連続するかもしれません。

自分は経済界でどれほどの価値があるかを診断してもらう、人材格付け会社が繁盛しているようですが、工学部同窓会の皆様方にはどうかご自分を見失わないで、この同窓会の交流を大いに活用して、次の時代に羽搏いていただきたいと思っております。これからのターゲットは、心と身体の健康、リサイクルを含む資源エネルギーの有効利用、それに環境維持です。これらに沿った工学技術の開発は緊急の課題です。同窓会の皆様方の社会への貢献を通じたご活躍を念じて、ごあいさつと致します。

(応化・昭和29年卒 榎ナードケミカルズ社長)

名誉会長 西村 仁



卒業生の皆様にはますますご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。工学部では平成2年、当時の学部長川村純夫先生のもとで、情報工学科と生物応用化学科の2学科を新設し、時代の要請に応える努力をしました。その後、木下雅悦学部長、多胡進学部長のもとで、最近の科学

技術の急速な進歩に伴う新しい課題（自然との調和を目指したソフトテクノロジー化）に教育と研究の両面で応えるために、更に2学科（知的材料工学科と環境都市工学科）の新設と既存学科の教育・研究システムの改善について検討を重ねてきました。

しかし、大学を取りまく環境は厳しく、いかに必要な改革でありましても、教員数、学生数を増やすことは認められていません。従いまして、改革が既存の学科の弱体化を招くことのないように、十分に時間をかけて検討を重ねた結果、今年の5月、ようやく成案の運びとなりました。大きな改革になればなるほど大学全体に与える影響も大きく、改革をリードする人たちの精神的負担は大変なものでしたが、よく耐えていただき、学部内外の意見を十分に採り入れた立派な改革案にさせていただきました。

この改革案をもとに、現在文部省と事前協議を重ねており、順調にいけば来年4月に新学科が発足します。この改革により、学科当たりの教員数と学生数はかなり少なくなり、ずいぶんコンパクトになりますが、逆に学生と教員の距離が近くなり、隔々まで行き届いた教育ができると期待しています。一方、小さい学科に学生が所属することにより、幅の狭い片寄った教育になることのないように、10学科を4つのグループに分け、複数の学科間協力により、基礎学力と思考力の養成を一層重視した教育を行う予定です。

大学の本部では本年4月1日、山本研二郎学長から児玉隆夫学長に代わりました。児玉学長の公約は“大学院を重点化させ、本学を第一級の大学にする”ことです。工学部では、今回の改革により教育・研究の画面において確実に活性化すると確信しています。また、引き続き大学院を再編成し、重点化させることも教授会で決定しており、これらの成果が現れる数年後の大阪市立大学に大いに期待していただきたいと思います。卒業生の皆様には、今後とも母校にご支援いただきますようお願いしまして近況報告と致します。

(工学部長・応用物理学科教授)

大阪市立大学の新学長が誕生

平成10年4月、児玉隆夫理工学部教授が山本研二郎前学長の後任学長に就任されました。

児玉学長は、本学理学部物理学科を1966年（昭和41年）にご卒業後、その翌翌年に同大学院理学研究科を修了され、以来母校での研究・教育に携わってこられました。

これからは、「大阪市立大学の質的向上とイメージアップ」を使命として、母校の特色ある発展に邁進されようとしています。

世界に羽ばたこう

木下 雅悦



1998年3月末で定年退職しましてからは書信もめだって少なくなりましたが、今日はDAAD（ドイツ学術交流会）から研究留学生募集の手紙が届きました。勿論私への案内ではなく若い助手や学生諸君で希望者があれば推薦してほしいということです。以前に比べると外国から奨学金の支給をうけて留学しようという人は非常に少なくなりま

したからね。

1965年の丁度今ころRothenburg ob der Tauberのゲート協会学校に入学しました。海外旅行に出掛ける人が増え、大阪市もこの中世都市の保存に協力していることから、この奇妙な名前の町もよく知られるようになりましたが、当時は突然中世にタイムスリップしたようでした。「タウバー川の（河岸段丘の）上の赤い（屋根の）城市」は人口約1万人で、さしずめ篠山か出石のような感じですが。ここに三カ月間閉じ込められることになったのです。

クラスは約30人で各国から数人づつ集まった、いわば大人の小学校です。三十年戦争のころの「市長の一気飲み」伝説だけが有名になったのが不満で、先生は嵩高い私たち生徒を町中引き回して、ヤコブ教会にさりげなく据えられたRiemenschneiderの精緻な木彫は特に詳しく説明されました。たまたまこの年は日本人が5人もいて、日銀、新日鉄や三井物産の才人が集まっていたので町の人々を招待し、Japanischer Abendと称する学芸会を開催するはめになりました。他愛のないことですが何十年も後になっても思い出になるのは、それなりに意味があったのでしょうか。町に水を汲み上げていた水車小屋に通じる旧街道には「訪れる人に安らぎを、旅立つ人に幸せを」と掲げられていました。孤独な旅人への町の思いやりです。本学へのアジア諸国からの留学生やJICAの研修生諸氏との接しかたを考えさせられます。

滞在費はフルボルト財団から支給されますが旅費は相手国の負担となっていました。国立大学は文部省が負担します。本学では旅費だけ援助という制度はまだなかったので、私費になりました。ベルリンの壁が出現して間なしでしたからシベリア経由は不適當ですし、香港からバスでイスタンブールにでて鉄道でウィーンから西側に入る経路がよく使われていました。が結局見るに見かねてかHapag-LloydからLuft Hansaのチケットが送られて来ました。やれやれと思うのと、恥ずかしいのと、情けないのと。

宿題は投げ出して、酸っぱいフランケンワインに係りきりになっていたので超低空飛行で押し出されました。十月初旬に大学にでかけて冬ゼメスターの登録をし、大学病院で健康診断を受けて学生証をもらおうと、早速学生寮に入りました。キャンパスは大戦中の兵舎跡のようなので昔の都風寮のようなのと新築の本学の法学部棟のようなのと両極端になっており、外国人は希望すると一流ホテル並の方に入れてくれました。爆撃跡の瓦礫が山積みのなかで国際交流にかける彼国の熱意の程です。当時の市大は徹夜実験が得意でしたから、休暇を捻出するのは簡単で、財団名にあやかってヨーロッパ中を学割で走り回りました。遠来の客が興味深く見物してくれ

るのはどこの国でも歓迎されることですし、そのために研究成果が少ないと叱られたことはありません。

可能性は無限に広がっていて、いつでも、また訪ねられると思っていたのが、それきりになってしまいました。先輩の忠告通りでした。よもや、こんなせせこましいことを書くことはあるまい、と思っていましたが、一通の手紙からこういうことになりました。やはり年です。

若い同窓生諸君、世界に飛び出して、この小さな国を外から眺めてみませんか。（元工学部長・生物応用化学科教授）

定年を迎えて

笹沼 道雄



私は原子力調査研究室から工学部へトレードされてから定年退職まで31年になります。この期間で1970年代の大学紛争は大変印象に残っております。鹿児島県内之浦でのロケットによる太陽観測の実験を終えて帰阪したとき、教室では授業が無く討論会ばかりで大学はどうなったのか

と状況を理解するのに時間がかかりました。工学部の紛争は延々と続いていました。この期間、多くの会合で各学科の先生方の考え方を拝聴出来たのは私にとっては素晴らしいことでした。

研究から遠ざかった毎日の生活は私の生き方にも影響を与えました。研究をロケット観測から学生も参加出来るテーマに変えることにしました。私が物理の教科書の中で一番理解できなかった熱放射関係を研究テーマに選びました。熱放射は、黒体モデルを基にしたキルヒホッフ則で扱うものとして、検証のないままこの一世紀にわたって踏襲されてきました。しかし、黒体モデルで説明できない観測結果が多くありますがこれらに注目しようとする学者はおりません。私は原点に戻ってモデルの検証に取り組むことにしました。卒研生の協力のもとで熱放射の測定を続けました。最新の精密機器も入手でき最後には再現性のよいデータを得ることが出来るようになりました。黒体モデルで説明出来ない多くのデータを入手できました。これらの解釈のための理論的モデルを提案しましたがまだ多くの物理学者を説得するに至っておりません。

定年を迎えることになり、私の研究は終了です。いつか私の論文に注目してくれる人が現れるのを期待しております。いま、私は自分の生涯の前半を費やしてこの研究に集中出来たことに満足しております。

大学を離れてからの私のもう一つの取り組みは旅をすることです。在職中は、長期間にわたる旅行は出来ませんでした。今は時間的余裕があります。勿論、大名旅行は出来ませんし、体力が低下しているため計画のどこまで実現できるかわかりませんが、あちこちを見て歩きたいと思っています。現在はサイクリングと登山で体力アップに励んでいます。

この4月末から19日間で自転車と徒歩による四国遍路にやって来ました。私は敬虔な信仰心を持ち合わせておりません。ただ、1100年も前に空海が定めた霊場寺院を結ぶ遍路巡礼が現在に至るまで受け継がれているのは何か魅力が有るはずだと思っていました。これを自分なりに探ってみようとしたのが動機です。自転車でのツーリングは老体にはかなりの苦行でした。強風に阻まれたり、この坂道はどこまで続くのかと思いつつ懸命にペダルを踏んでいました。四国の美しい自然と人々の暖かい親切は私の旅の支えとなりました。毎日の運動で筋肉が鍛えられ、整形外科医に見放されていた膝と椎間板ヘルニアの痛みが無くなりました。これは遍路の御利益でした。私にとって四国遍路は、仏の慈悲を祈願する旅ではなく修行でした。遍路は参加する人に大きな感動を与えます。それが絶えることなく継承されている所以だと実感しました。
(元応用物理学科助教授)

機械工学科

機械工学科の近況

守田 栄之



昨今の厳しい経済状況ですが、皆様ご健勝で、ご活躍のこととお喜び申し上げます。また春には、東京の皆様方にこいさん会にご招待頂いたにも拘らず少々体調をくずし、出席できず失礼しました。代理で出席して貰った野邑教授が宜しくお伝え下さいとの事でした。

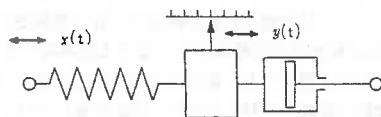
工学部全体の改革として既に情報工学科、生物応用化学科およびそれらの大学院が新設された事はご承知の事と思いますが、来年度、平成11年4月開設をめぐりに更に2学科、知的材料工学科と環境都市工学科を増設し旧来の6学科より文部省の認可が下りれば計10学科になる予定であります。

ところで、昨今の厳しい社会状況は大学も例外でなく、旧来からの教員定数等のままでの改革でそれだけに大変であります。機械工学科としては、前者、知的材料工学科にたいしては母学科として協力して行くことになっており、現在その作業が進んでおります。具体的には材料力学講座の福田教授、元木助教授、逢坂講師の三人と四つのポストが知的材料工学科に移籍することになります。したがって機械工学科としては極めて少ない教員数等で教育、研究を行って行くことになります。しかも全国的には学部改革は終了しつつあり、ウエイトはむしろ大学院改革に移りつつあり、それも時間的にそれほど余裕はない状況で非常に大きな努力が求められている現状です。

一方、教員の動向ですが本年3月に中山 守先生と深井完祐先生がご定年退職され、また森元時夫先生が国立奈良教育大学に教授としてご栄転されました。そして4月からは上神謙次郎先生が機械工作および機械材料講座の教授に昇任されました。機械設計および繊維機械講座に川上洋司助手が採用され、更に同講座の吉岡真弥助手が6月に学位を取得されました。また、発令は10月になりますので本報告では触れませんが4人の先生方が夫々昇任される予定です。

在学生諸君の状況ですが厳しい社会状況を感じてのことと思いますが頑張って勉強しております。M2、4回生の進路動向は就職希望者は幸いほぼ内定しております。4回生の本年の特徴は大学院進学希望者が非常に多いということです。以上近況をご報告いたしました。

最後になりましたが、ご健勝で、ご活躍されることをお祈りしております。お時間がありましたら大学へもお立ち寄り下さい。
(機械工学科主任教授)



1999年版会員名簿の
会員データ調査、名簿購入、
協賛広告にご協力下さい!!

工学部同窓会は、来年11月末に1999年版会員名簿(第9号)を発行する予定です。そのため、会員データ・名簿購入予約・協賛広告予約等の調査カードを、間もなくお送り致します。ご協力とご支援をよろしくお願い致します。

終身会費の未納会員へ

当会では、過去20年間据え置いてきた終身会費を、来年中に値上げする必要があり、現在その金額を検討しております。

新会費の額と実施時期は、事前にご連絡致しますが、現在終身会費が未納の会員は、速やかにお払込み下さるようお願い致します。

【払込み先】

①郵便振替

口座番号：00930-5-12741

加入者名：大阪市立大学工学部同窓会

②大阪市農業協同組合住吉支店 普通貯金

口座番号：1372947

貯金者名：大阪市立大学工学部同窓会

電気工学科

『こいさん会』

伊藤 博之



今回「こいさん会」会長の役割を担うことになり大変緊張しております。この会は今年40周年を迎え、先輩諸氏が長年に亘って続けて来た(旧制都島工専と大阪市立大学工学部の機械工学科の卒業生による)関東支部同窓会です。前会長の真野司郎氏は温厚な人柄と魅力ある先輩で2

次会へと一緒に出かけカラオケ等も皆で楽しみました。真野先輩が宇部に戻る事になり私が指名されるのではないかと悩んでいたら早朝に電話があり会長を引受けて呉れと言われ返事をしてしまいました。今年は5月29日の総会で28名集まりました。特に今まで一度もお会いしていなかった金田龍之介先輩にお会いでき感激しました。毎年6月の舞台稽古が忙しくて来れなかったのですが今年は空いたので来てくれました。又24年卒の工専電気科の福井初昭先輩にお会いしアメリカでの生活等話が尽きない感がありました。市大からは野邑先生に出席いただき学校の近代化等を伺いました。益々「こいさん会」を発展させたいと願っています。

(機械・昭和41年卒・本田技研・第5代こいさん会会長)

近況報告

東 恵美子



「私は20代よ〜ん」と思っていたら、そろそろ三十路にタッチするくらいになっていました。大学を卒業して6年。早いもんだなあとしみじみ思ってしまう。

私は日立造船㈱に入社して以来、機械技術研究センターというところでプラントの内部流体に関連する開発に携わっています。扱うプラントがゴミ焼却施設、発電所排ガス施設、電解槽、抄紙機、充填機等々多岐にわたるので目が回りますが、飽き性な私にはちょうどいいのかもしれません。

世の中の流れのご多分に漏れず、やれコストダウンだの高性能化だの高付加価値化だの開発目標を与えられ、「できればいいよね。そんなスーパーマシン」と心の中でつぶやきながら、さまよいながら地道な一歩を積み重ねている毎日です。天才は9分の努力と1分の閃きから成り立つと言いますが、いいマシンというのもそういうもんだと自分に言い聞かせがなばっています。でも、最後の1分の閃きがなければ、いいモノにはならないのが凡人にはつらいところですが。

(機械・平成5年卒・日立造船㈱)

電気工学科の近況

松下 賢二



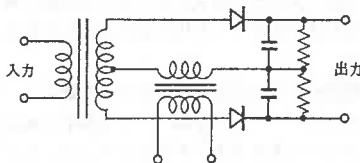
今年は中国や韓国での大洪水、アメリカの熱波など世界各地で異常気象が見られます。日本においても東日本、北日本における低温の夏、逆に西日本での長期にわたる熱帯夜など世界の例に漏れず異常なことが起こっていますが、同窓生の皆様方、いかがお過ごしでしょうか。

電気工学科では藤井先生の退職された後しばらくの間空席だった電気機器学講座の教授に今年4月から建部先生が昇任され、教授5体制が整いました。さらに充実した教育研究を目指して努力して行きたいと考えています。反対に残念なお知らせなのですが、山田正一郎先生が今年1月亡くなられました。突然のことで私たちも非常に驚いたのですが皆様方からのご協力も頂きましてご遺族の方の奨学金をお送りしました。一番筋ののっている年代でアクティブに活躍されており、これからというときに非常に残念な思いです。

日本全体が大きな転換点にさしかかっている状況で大学もその流れの中、昨年度から工業高校からの推薦入学者の受け入れなど色々な改革がなされようとしています。後期博士課程の社会人入学制度も数年前より実施しておりますので是非一度ご検討下さい。

卒業生の就職に関しましては毎年のごとく同窓生の皆様方に色々お世話になっています。昨年銀行の倒産など深刻な不況が顕著になってきていたのですが、比較的多くの卒業生がお世話になっている三田工業の倒産には本当に驚かされました。今年は求人数も昨年とそんなに変わらず、また、就職活動の始まりも早まっているようでしたので、安心していましたが、8月時点で数名の学生さんの就職が未定という状況です。求人のため訪問いただいた会社の多くの人との話で、それぞれの会社が求める人材への要求が今後ますます厳しくなるようで、もはや市大電気という名前だけではどうにもならないことが実感できました。自主性、リーダーシップ、国際性などのキーワードで表される要素を持ち合わせる人が求められているようです。多少一面的との印象も受けましたが何となく学生生活を送って何となく卒業していくという状況ではなくてきている事は確かです。大学も自己改革? (外の状況変化による改革) が迫られています。今後ともご支援のほどよろしく願っています。

(電気工学科主任教授)



応用化学科

ファクシミリのなくなる日

高原 秀典



シャープ㈱に入社して28年が過ぎました。昭和47年の公衆回線の開放以来、常に電話回線を利用した商品の開発に関わり、ここ8年間はファクシミリの開発を担当してきました。国内を含む約50カ国にファクシミリを展開しており、世界一の生産台数を続けていますが、パソコンの急激

な普及により、巷ではファクシミリは2～3年で衰退すると言われていて、幹部からもこのままでは確実になくなると脅迫を受けています。職場においても、やむを得ない文書以外は電子メールに置換されており、“ファクシミリのなくなる日”も近いことを肌で感じて来ますし、この日に備えて、いかに抵抗するか、いかに共生するか、いかに変身するかを模索する毎日である。しかし、まだ台数は確実に伸びており、日本ではコードレス電話と複合し、欧米ではパソコンの入出力装置として共生し、更には、電話の通じるのであればどこでも接続可能という利便性とその操作性の簡便さを武器に、有線の入り口を死守するという気概を持って取り組んでいきたいと思う今日この頃である。

(電気・昭和46年卒・シャープ㈱)

応用化学科の近況

小澤 文幸



卒業生の皆様には益々御健勝にて御活躍のこととお慶び申し上げます。昨年に引き続き学科主任を勤めさせて頂いております。

応用化学科では一昨年度のB棟改修工事に続き、昨年度は念願のD棟改修工事が行われました。学生実験室には真新しい実験台が設置され、

エアコンの完備した快適な環境の中で学生実験が行われております。これも長年にわたって教育設備の充実に向け、地道な努力を続けてこられた諸先輩方のご苦勞の賜と、心より感謝申し上げます。また3月には、大学院最先端設備用品として単結晶X線構造解析装置が2台導入されました。

本年度の新入生は、学部35名、大学院前期博士課程15名、後期博士課程2名でした。また来年3月には、学部34名、前期博士課程15名、後期博士課程2名の卒業生を予定しております。大学院生は後期博士課程進学希望の1名を除き、ほぼ全員の進路が決まりました。学部4回生は大学院進学者が7割を越えました。今後この傾向はさらに強まるものと予測しております。長引く深刻な不況の中で、学部学生、特に女子4回生の就職は俗に「超氷河期」とよばれる、きわめて厳しい状況が続いております。卒業生の皆様の一層のご支援をお願い申し上げます。

さて、全国的な理系大学院重点化と大学院収容定員の増加の中、本学も緊急にその存在意義と教育・研究の在り方の見直しを迫られています。このような状況のもと、工学部では、来年4月から10学科体制への移行と全学科大講座化を予定しております。応用化学科は、現在の4小講座制から1大講座制に編成換えの予定です。これまで学部共通研究室であった材料化学所属の2名を正式に学科に迎え、14人教員体制がスタートします。余すところ2年半で20世紀も終わりを迎えようとする今、日本経済情勢と同様、当学科も大学院重点化に向けて難問が山積みの状況です。皆様のご期待にこたえ得る、魅力あふれる新学科体制を目指して行きたいと考えておりますので、卒業生の皆様には今後とも変わらぬ御支援と御鞭撻をお願い申し上げます。

末筆ながら皆様の益々の御健勝と御活躍をお祈り申し上げます。
(応用化学科主任教授)

大競争時代を迎えて

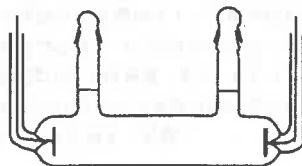
八尾 吉一



1988年、研究室の先生方にご迷惑をかけながら卒業して10年。食えないスタジオのサウンドエンジニアから食いつなぎの多目的ホールのアルバイト、知人に誘われての新製品情報や入社案内の原稿書き、そして現在のゲームソフトウェア開発に至り今年で6年を迎えようとしています。

景気に左右されることの少ない玩具・ゲーム業界にも今回の不況は暗い影を落とし始めました。家庭用ゲーム機向けソフトウェア開発委託を生業とする我々の会社はいわゆる零細ベンチャーです。落ち穂拾いに徹すれば仕事はまだ見つけられますが、大手ゲームメーカーなどは大量の開発スタッフ維持するために大ヒットを作り続けることを要求され大変なようです。

しかし映画やパソコンなどを見ると最大数のユーザーを狙う大作主義からターゲットを絞った1点豪華主義にヒットの条件が変わりつつあります。不景気な今こそ、大から小まで規模の異なるメーカーが似たような土俵で競える時代と言えるのではないのでしょうか。(電気・平成元年卒・㈱カンズ)



建築学科

環境ホルモン

三谷 俱正

「奪われし未来」という本に環境ホルモン（正式名：内分泌かく乱物質）の影響が取り上げられてから、化学工業界では論議が活発化している。これは、ある種の化学物質がホルモン受容体と結合してホルモンの様に行動するため本来のホルモン作用をかく乱して、生まれてくる子供



に精子数の現象、雌化又は雄化、奇形等を生ずると言う恐ろしい話です。

環境庁は本年疑わしき化学物質として67物質を指定し、の中に塩ビ用可塑性剤のDOP、DBP、DOAが含まれていることから、技術を担当する小職にとって急に対応に迫られる毎日になってきた。DDTやPCBは数々の実例があるが、可塑性剤はごく限られた実験例から疑われたものである。日本では一部マスコミや学者がセンセーショナルに取り上げて、「疑わしくは使用せず」立場にあるが、EUでは塩ビ製幼児用玩具の使用禁止運動が中止になったように「科学的根拠無くしてむやみに製品の使用を禁止してはならない」というスタンスにある。どちらが正しい判断でしょう？。

（応化・昭和41年卒・大日本インキ化学工業㈱）

地球環境問題について

由谷 雄司

現在、東洋紡の地球環境研究所に勤務しています。私のテーマは、重金属を含まない防食塗料の開発です。防食剤としては今はクロムなどの有害な重金属系が主流ですが、これらを毒性がない（少ない）と思われる導電性高分子系に置き換えようとしています。性能的に現行品にかなり



近づいてきたなあと思っても、ユーザー求評ではきびしい評価を受け、改良を重ねている毎日です。

一口に環境にやさしい製品の開発と言っても、性能面以外にコストの問題や、またフロンのように少量だと問題ないが、大量に長期に出回ると、地球環境に重大な影響を及ぼすものもあり、なかなか簡単にはいきません。

オゾン層破壊、地球温暖化、そして最近の環境ホルモンに比べて、重金属問題は今はそれほど話題になっていませんが、ブームになっているにもかかわらず、地道に研究開発を続けていくことが重要であると思います。

子供と遊んでいるとき、この子が成長したら、これらの問題がどうなっているのかと思いますが、今の仕事がこの子たちのためになるよう日々業務に励んでおります。

（応化・昭和55年卒・東洋紡㈱）

一言、

多胡 進

御清晶にお過しのことと存じ上げます。

これからの建築、その実体からつくられる大都市圏は、蓄積を生かし継承しながら、世紀単位を見通した創造が求められる革新の時期を進展していると考えられます。



建築学科をはじめ、大学は諸改革をここ10年来実行してきました。工学部、工学研究科、建築学科、建築学専攻は半世紀以上にわたって大阪市民、先生方と先輩達によってつくられてきました。建築学科は、平成11年4月から工学部の10学科体制の中で、次代に向けての教育研究活動を、他学科の教育研究と連環をともなって、継続発展させることとなります。

この新たな実施は、直ちに工学研究科の強化充実の近未来目標を実現させる過程で、大阪市立大学の建築学は、常に求められ展開して来た研究・技術の総合性と高度性を進展させていくことになります。近年の都市社会の課題である情報化・快適化・魅力化を求める都市生活の変遷、新たな社会福祉活動あるいは市民活動に適應する場の用意、新産業の創出活動、地球環境問題への持続的対処、21世紀を通じて建築と大都市の具体像の造営方法、学術文化の発展等は、建築学が発展させてきた創造性と高度性によってこそ実現します。建築学を直接に責任を持つ人数はこれまでよりも少なくなる中で、知恵と行動力を持って進めることになります。これまでもそうではありましたが時代に適合する新たな“開かれた”教育研究活動を開発しこれらを押し進めて国際的な諸活動のコアを形成できることを図っていくことになります。以上、建築学科が果たしつつある教育研究活動の一言の報告です。

諸先輩の諸活動は、折々の場でお聞きますが、ご健勝を喜んでいます。建築学科では、本年3月に、図学講座の田中康夫助手が梅花女子大学教授で転出され、西岡眞念助手を迎えました。先輩の鬼武、上田の両名誉教授には、学科を見つけていただき、三輪、日置の両名誉教授は益々活躍されています。川村名誉教授は川村風科学研究所でご活躍され、鈴木成文先生は神戸芸術工科大学の学長に就任され、栗原元教授は大学と設計事務所主宰の双方で活躍されています。他方この9月は、都市計画の川名吉工元教授、安藤昌範近畿大学助教授が逝去され、緑地計画工学でお世話になった阿部大就大阪府立大学教授も逝かれました。多年の指導に感謝しますと共に、ご冥福をお祈りします。

学部学生、大学院学生ともに、本年は4月から求職活動を続けております。卒業までに就職先をまとめた学生が未だおります。どうか、重ね重ねご支援とご採用の程をお願い申し上げます。（建築学科主任教授）

建築行政

西川 靖一



役人になって、32年が経ち、役人らしくない役人になろうと努めてきたが、歳を重ねるとともに役人になっていく自分が気になっている。

神戸市役所の建築職は約300人で、そのうち一級建築士は160人、建築主事資格者は130人の市内最大の建築集団である。

市大建築学科出身者は19人で大学別では、神大、京大、工大について多人数である。一方、市の女性建築職はここ8年間増えつづけ今年で28人となり、神大に次ぐ勢力になっている。

私は、今年の4月から初めての建築行政の仕事に移り23年前に取得した建築主事資格が役に立つときがきた。

今年の建築基準法改正に伴い、建築確認・検査が民間に開放され、公共は、今まで以上にまちづくりに集中し、違反是正に取り組むことが可能になった。

神戸市では指定確認検査機関の設立準備や市街地の地域特性を踏まえたすまい・まちづくりのあり方と施策展開等について研究をはじめている。

今後の、新たな建築行政にご期待ください。

(建築・昭和41年卒・神戸市住宅局)

キャリアウーマンって誰？

池内 淳子 (旧姓：高橋)



「女性の視点で…」ともてはやされたバブル時代を過ぎ、就職にも秋風を感じる平成7年に私は大学院を修了しました。私自身は、研究室の先生方のお蔭をもちまして今の会社に無事もぐり込むことができました。構造設計なるものを仕事としているのですが、女性ではまだまだ珍しく

なかなか変わり者扱いです。

「バリバリのキャリアウーマン」というのが周囲から見る私のイメージだそうですが、現実はそのなかっこうのいいものではありません。自分に非常に甘い私は仕事でつらくなるとき、しょっちゅう「やめる〜」と夫に息巻いて、さんざん文句を言ったあげく寝てしまいます。(夫はいい迷惑です。) また、就職情報雑誌を購入し、とらば〜ゆした自分を想像しほくそえんでごまかしたりもしています。こんな私ですが、色々な転機を迎えてもやはり「仕事を続ける」方に決心してしまうのは、お仕事が好きなのでしょう。私と同様、「結婚してもお仕事を続けたい」という夢をお持ちのあなた。一緒に変わり者扱いを受け、がんばりましょう！

(建築・平成5年卒・㈱ニュージェック)

MORE IS BORE

源田 敏之



巨匠ミースは「LESS IS MORE」と合理主義を表現し、R、ヴェンチュリーはそれを「LESS IS BORE」と皮肉った。ヴェンチュリーの指摘するラスベガスの喧噪や混乱はバブル期に向かう日本の街の表情そのものだったように思える。人々が欲望を噴出させ技術屋

がそれを実現する、その上に新たな欲望が出てくるというこのサイクルはある意味で建築屋の夢の場でありまさにその内容においてバブルであった。豊かさとは所有の量であり内容ではなかった。当時清家清氏がその著書で豊かさを問題にしているが、人々の思考範囲でその転換期が来たのは、阪神大震災以降ではなかろうか。一瞬にして無に帰するものは人の生命を含めてあまりにもはかないと感じていたのは私だけではないはずである。ショッピングセンターを作っても商品が売れないのは皆すでに物を持っているからである。量より内容(質)、我々の子供たちに伝えなければならぬのは物の豊かな量ではなく質である。「MORE IS BORE」(多くのものを求めればそれだけ退屈になるだけだ。)

(建築・昭和54年卒・京阪電気鉄道株)

平成10年卒業・修了者数(名)

専攻分野	機械	電気	応化	建築	土木	応物	情報	生応化
工学部	55	37	32	37	41	37	17	16
大学院(前博)	14	11	12	12	11	11	-	10
大学院(後博)	3	3	2	0	3	2	-	1

平成10年入学者数(名)

専攻分野	機械	電気	応化	建築	土木	応物	情報	生応化
工学部	48	44	35	39	44	36	16	19
大学院(前博)	15	12	15	10	14	12	9	8
大学院(後博)	3	3	2	4	3	1	-	4

土木工学科

土木工学科の近況

園田 恵一郎



昨年同窓会報(14号)での中井先生の主任の弁を眺めながらこの一年を振り返っております。やはり最大の悲しい出来事は本年2月25日、真嶋光保助教授(3月教授会にて教授の補職を追贈)の急逝でありました。亡くなる前日は卒業論文の発表会であり、真嶋先生は最後まで学生

に鋭い質問を投げかけておられたのに、翌日は前期入学試験日で真面目な彼が定刻までに来ないので、どうしたのかと思っていたら、自宅で倒れて急死したとの知らせが入り、本当か、そんなアホな、ただただ呆然とするばかりでありました。後日奥様に聞いたところ、この何年間は毎晩研究室にこもり、夕食は大学の近所で取り、帰りの電車は11時何分かが定番で、帰宅は午前様になるのが日常であったそうです。亡くなる前日も夜遅く研究室で指導している卒論生の発表がなっていないと大声で怒鳴っておられたそうです。随分無理をされたのではと悔やまれてなりません。先生のご専門はコンクリート工学で、特に連続繊維補強の研究分野では第一人者であり、お通夜およびお葬式には全国から延べ約1200人が参列されたことから見ても、先生の高い評価と惜別の声が窺えます。今後の土木教室の貴重な人材を無くしてしまい、残念です。あらためて先生のご冥福をお祈り申し上げます。

4月に入り、橋梁工学講座の中西克佳助手が日本鋼管㈱の技術研究所に請われて転出されました。入れ替わり京都大学から山口隆司助手が採用されました。山口先生は平成8年3月京都大学大学院工学研究科博士後期課程修了で、鋼構造の力学を専門とする新進気鋭の研究者です。今後の土木教室を担う人材の一人です。土木計画学講座の日野泰雄助教授は3月末から1年間の予定で英国のロンドン大学に留学されており、現在、同講座は西村昂教授がお一人で学生、院生の指導に奮闘されておられます。

平成7年4月より、大学院工学研究科後期博士課程に社会人特別選抜制度が設けられ、第一期生として、土木工学専攻に祝賢治氏(三井造船㈱)と上平謙二氏(ドービー建設工業㈱)が入学され、この3月でめでたく博士(工学)の学位を取得されました。引き続き現在6名の社会人学生が後期博士課程に在籍されています。

ご承知のように建設業を取り巻く厳しい経済情勢のなかで、来年4月卒業予定者の就職戦線は例年になく厳しさを増しております。しかしながら、卒業生の皆様の暖かいご支援のお陰で、現在のところ就職指導は順調に進んでおり、民間会社では2、3名を残し、内定または内々定の連絡を受けています。一方、公務員の方も、国家I種、阪神高速道路公団、住都公団、大阪市、神戸市などの就職試験に健闘しており、久しぶりに建設省にも一人が入れそうです。

最後になりましたが、昨年12月の国際シンポジウムの開催につきましては、土木工学科卒業生の皆様には特に大変お世話になりました。お陰様で成功裏に終えることができました。本紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

(土木工学科主任教授)

近況報告

内藤 英晴



昭和54年に工学研究科前期博士課程(土木工学専攻)を修了し、社会人となって今年で20年目を迎えています。現在は五洋建設㈱に勤務しており、入社後の12年間技術研究所でコンクリート新技術の開発を行った後、東北の八戸市で橋梁建設工事に3年間従事しました。平成7年4月には技術研究所に戻ると同時に、東北大学大学院工学研究科後期博士課程(社会人ドクターコース)に入学しました。それからは鋼とコンクリートの合成構造に用いる高流動コンクリートと呼ばれる特殊なコンクリートの研究に明け暮れていましたが、昨年からは日本道路公団発注の北関東自動車道建設工事のために群馬県前橋市内で勤務することになりました。学位論文のまとめの時期における転勤で、現場業務との掛け持ちとなりましたが、職場の仲間達の協力を受け、なんとか今年の3月に博士(工学)の学位を取得することができました。

現在、栃木県に住む家族と離れ慣れない単身赴任生活を送っていますが、毎週末には洗濯物を抱えて150kmの距離を往復しています。(土木・昭和51年卒・五洋建設㈱)

新聞沙汰!

仲田 義弘



大学院を修了後、阪神電鉄に入社し、早や5年が過ぎようとしています。入社1年目には阪神淡路大震災に見舞われ、2年間にバタバタと過ごした後、阪神西大阪線(ローカルなんで知らない人も多いと思います)の高架化工事を担当する事務所になりました。

事務所では与えられた仕事は、神崎川橋梁・左門殿川橋梁の横移動工事でした。施工上の制約からトラス桁を一度約4m下流側に架設し、上流部の橋脚が完成した後に橋桁を4m上流の正規の位置に移動する必要があります。橋桁の架設工事は市大の先輩である河野氏(平成3年卒)が担当しており、それを引き継いで横移動工事を担当することになりました。

横移動工事は、営業線を切り替える必要があるため、終電から始発までの間に完了する必要があり、また、1スパン当たりの全死荷重が約1000tにもなることから、特殊な工事として新聞にも取り上げられました。

市大リレーで完成させたこのトラス桁を甲子園に行くときにも、一度、ご見学ください。

(土木・平成4年卒・阪神電気鉄道㈱)

応用物理学科

応用物理学科の近況

美馬 宏司



同窓生の皆様いかがお過ごしでしょうか。この一年も、いろいろのデキゴトがありました。

西村仁先生がこの4月より工学部長に就任され、学部改組をはじめ「難問解決」に連日取り組んでおられます。

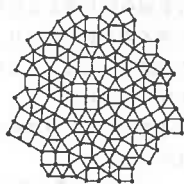
笹沼先生はこの3月末日をもって定年を迎えられました。長い間ありがとうございました。お別れパーティーなどでは先生のユニークな研究に話題が集中しました。現在、世界の自然文化遺産めぐりというすばらしいプランを練っておられるようです。

中村先生は英国プリストル大学へのこの9月末までの半年間出張されました。いろんなお話をゆっくりと伺えるチャンスをつくりたいと考えております。

大変残念なお知らせですが戸村先生が去る4月7日82才で他界されました。「戸村さんがね彼のイオン結晶の論文をくれたよ、“これが僕の遺言だよ”といいながら”こんなお話しを横田先生から伺ったのはつい1年前のことでした。戸村先生は「葬式はいらない。あちこちで時々『しのぶ会』をしてほしいな」と最後におっしゃったと伺っております。皆さんも先生の思い出をたくさんお持ちでしょう。あの「難解」な講義、小気味よい社会批評。私にとって印象深いのは先生流の育児法。むかし、戸村二世ご誕生のお祝いに友人とお宅におじゃました折りのこと。一升瓶をお伴に。玄関のドアが開くと部屋から流れてきたのは当時の流行歌。まさか生まれて三月の乳飲み子に、子守歌代わりに??部屋に通されてまたびっくり。無惨にもプラスチックカバーがベンチで噛り取られて丸裸になったTVのスピーカー。目をパチクリの我々に「師曰く」。赤ん坊だからといって幼稚な曲を聞かせてはいけないんだ。曲はメロディーの良さで選ぶべきなんだ。この子には曲の良さがわかっているんだ。「ねっ、そだろ!」(赤ちゃんはこれに答えずすやすや)。「師再び曰く」。子供の素朴な疑問には親が分かり易くこたえてやるべきなんだ。音がどこからどんな風にして出てくるのか。赤ちゃんのためにはやくも「物理の講義」の準備をされるやさしいパパでした。こんななつかしい思い出もまた一段と遠いものになってしまいました。

さて、応用物理学科では新学科づくりへの協力と10学科体制後をにらみ、応物のより一層の充実に鋭意取り組んでいます。同窓生のみなさん、ぜひ応援して下さい。

(応用物理学科主任教授)



思い出

田守 芳勝



戦災で焼け残った様な小汚い3階建のビルが我々応用物理の計測工学ゼミ(故東野教授)の本拠であった。今を去る35年前の話である。3階には申し訳程度の教授室があり、教授であった東野先生は「兵隊の位で云うと、連隊長という所やなあ」等と言いながら、ボーイスカウトの服装

をして、大阪の連盟に出て行かれた。我々の方は昼間は近くの扇町プールに泳ぎに行き、教授室の横の学生の溜まり場には「赤フンドシ」が5~6本ひるがえっていた。昼間は誰も実験室に居らず、夜になると全員出てきて、エンジンを回したり、計測器を組み立てたり、朝までゴソゴソしているというのが毎日であった。後年東野先生にお会いすると「お前達程悪い連中が集まっていたのは、後にも先にも無かったなあ」とよく言っておられたが、良きにつけ、悪しきにつけ、良くまとまった同期達で良い仲間である。この時の人間関係の大事さが、私のその後に大いに影響しており、人とのつながりを大事にする人生観を育ててくれたものと感謝している。後輩達も良き仲間意識を育てる大学生活を送って欲しいものだ。(応物・昭和38年卒・ヤンマーディーゼルの)

私の職場

山内 尚彦



大学を離れて、もう8年。近況を少し述べさせてもらいます。私は大阪府立の産業技術総合研究所に勤務しております。研究所は中小企業の育成のための公設試験研究機関です。よく、何を研究しているのか聞かれますが、私は金属表面の分析をテーマにやっています。しかし、研究所にはもう一つの顔があります。それは、中小企業の技術的な支援や相談・試験業務です。

様々なお客様が様々な依頼をなさいます。中国製の安い鉄鋼の試験や、家具のメッキの分析もしました。怪しげな新製品の評価を期待される方もおられます。

お年寄りの方が「餅に入っていた」金属片を持ち込まれたこともありました。金属片を分析してみると、歯科用合金でした。結果を申し上げますと、自分の口から出たことに気づかれたようで、苦笑しながら帰って行かれました。

難しいこともありますが、これも日々勉強とがんばっています。なにか相談等がありましたら、和泉市の研究所(代表Tel: 0725-53-1121)へどうぞろしく。

(応物・平成2年卒・大阪府立産業技術総合研究所)

情報工学科

情報工学科の近況

辰巳 昭治



街角、駅構内、首を少々傾け、耳に手をあて、遠くの友人と話しながら歩く若者。食堂あるいは喫茶店の椅子に座ると同時に、テーブルの上に置かれる携帯電話。仕事場に着くと、パソコンの電源を入れ、電子メールを読み、返事の作業。新聞を開くと、情報インフラ整備、電子商取引の開始、衛星電話の開始などの情報関連のニュース記事。

世の中、去年末に顕在化した金融不安を因にした平成の不況だと言われ、多々ある暗い話題のなか、情報通信産業に携わっている諸兄の皆様方は、忙しい日々をお送りのことと思えます。

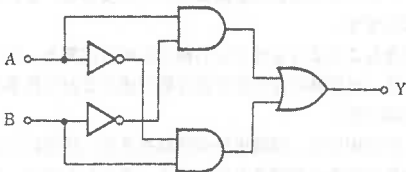
さて、今年度は、新入生16名(内女子2名)、2期生となる大学院修士課程9名(内女子1名)を迎えました。また、教員人事としては、平成10年4月1日より、情報処理工学講座の中島重義助手が、講師に昇任されました。この結果、教育・研究面に新風が吹くものと思われます。

今回学科学主任を受けるに際し、昨年度から就職協定が廃止されたこと、景気が去年の秋頃から悪くなったことなどから、就職斡旋が心配でありました。また、情報工学専攻の修士2回生の就職活動も今回初めてあります。しかしこれらの心配も杞憂になりました。修士修了見込みの学生を是非欲しいという企業が多々あり、これも先輩諸兄のご活躍とお導きの御蔭と心から感謝しています。この結果、修士2回生11名のうち、10名(内女子留学生1名)が内定を受け、1名は進学の手続きです。一方、学部4年生19名中17名が卒業予定で、11名が進学を希望し、就職希望者6名中5名が内定を受けています。情報・通信産業は可能性を大きく秘めた分野であり、創造的仕事をいつも心懸け、世に受け入れられよう頑張ってくれることを願っています。

情報工学科としての大きな課題は、後期博士課程の設置にあります。工学部長、事務長はじめ関係の皆様方のご協力を得、6月末設置申請書類を文部省に提出いたしました。高度情報化社会の実現を担うためにも是非とも開設に漕ぎきたいと念じています。

最後に皆様のご活躍とご発展をお祈りいたします。

(情報工学科主任教授)



社会人になって

竹内 歌奈子



のんびりとした4年間の大学生活を終えて、私もいよいよ社会人になりました。社会人というと学生の友達には「大変そう、しんどそう」などとよく言われ、私も実際に学生の時に社会人の友達が気の毒に思えた時もありましたが、いざ自分がなってみるとそれなりに何とかなっています。

朝は確かにつらく、満員電車はいやになりますが、金曜日が来た時のうれしさ、ボーナスをもらった時のうれしさはやっぱり社会人の特権だと思います。その上、幸か不幸かわかりませんが私は情報システム部に配属され、大学で学んだ事を生かせる仕事に就く事ができました。といっても、これから勉強すべき事はたくさんあるのですが、しかしそこも社会人。勉強した事がそのまま仕事で実践でき、それで給料をもらうのです。勉強に対する姿勢も変わってきます。やりがいも感じられます。まだまだ新入社員ですが、早く会社の役に立てるように、胸をはって自分の仕事を自慢できるようにがんばっていきたいと思っています。

(情報・平成10年卒・ドコモ関西)

微妙な心境の変化

濱口 富治



あまりにも違いすぎる日常生活、そんな社会人生活が始まって数ヶ月、最初は本当にやっていたのかどうか不安に感じていましたが、意外とあっさり新しい環境に馴染んでいる自分がいます。さて、近況報告としまして、現在の仕事について報告しますと、そこはやはり新人ということ

で、とにかく覚えることの連続、自分がどういう位置づけで何をすべきなのかがおぼろげながら見えきたところでしょうか。また、仕事を覚えると同時に時間の大切さを痛感しています。大事な時間を意味もなく削ってたところでしょうか、今までの生活は・・・そういうことを考えているからかどうかわかりませんが、少ない時間を割いてまで行く仕事の後の一杯がうまい！とにかく、お酒を飲むにいく機会が増えたため、お酒に強くなってきました。ひよっとしてこれが最大の実績(！?)かもしれません。

まあ、これからいろいろあるでしょうが、軽い気持ちで重い答えを待つような感じで、そう深く考えこまずになんとかなるさぐりの気持ちでがんばっていかようと思っています。

(情報・平成10年卒・関西日本電気通信システム株)

生物応用化学科

学科の近況



玉垣 誠三

平成2年4月の生物応用化学科、7年の生物応用化学専攻前期博士課程に次いで、昨年4月には後期博士課程の設立も終えた。また、一般入試に加えて昨年度から専門高校卒業予定者を対象に推薦入試を実施し2名を受け入れた。現在、学部70名、大学院前期博士課程19名、後期博士

課程は社会人を含めて11名が在籍している。今春の学生の進路先は本会報名簿の通り。来春の学卒予定者15名のうち12名は進学希望です。また、来春修了者の就職先も6月初旬に早々と全員内定しました。企業受けが良いのは学生の質の高い証拠です。社会的に生応化が認知されてきたのが実感できこの上ない喜びを感じています。

教員構成は、現在、生物工業化学講座：仲矢忠雄教授、笠井佐夫助教授、北村昌也助手；生物化学工学講座：加藤錠治教授、大嶋 寛助教授、東 雅之助手；生体機能化学講座：玉垣誠三教授、長崎 健助教授；生体材料工学講座：山内清教授、北条裕信講師、立花 亮講師；工学部共通講座：荻野健治教授の面々です。ところでこのなかにも木下雅悦教授の名前がないのにお気付きの方がいらっしゃるのではないでしょうか。先生はこの3月末日をもって定年退職なさいましたが、長年にわたり教育研究に精励され多くの優れた人材を社会に送り出されました。この間、大阪市立大学図書館長や工学部長の要職を歴任するなど大学や学部の運営に貢献され、学科と専攻の開設にも大変ご尽力されました。今後ともご壮健で一層のご活躍を心からお祈りいたします。教員組織に関して来年度にはさらに大きな入れ替えがあります。定年退職を迎える2教授の後任に既に優秀な人材の確保を終えています。来春には新しいスタッフをまじえパワーアップした組織態勢が出来上がるはずですよ。

来世紀は一層科学技術が重要になります。我々は、多様化社会の要求に対応できるように自ら変革を遂げ、クリエイティブに能力を発揮出来る場を提供し、様々な制度と施策、細かな配慮を通じて優秀で意欲のある学生を育てよう、と頑張っています。いったん社会に出てから大学や大学院で再び学びたい人のために年齢に関係なく門戸を広げ必要なときに必要なだけ学べるようするべきでしょう。我々生応化一同は、特に若い人達に夢をもち夢を実現出来る知恵と勇気と力を持たせるべく鋭意努力を重ねます。今後とも皆様方の一層のご支援をお願い申し上げます。皆様のご活躍と益々のご発展をお祈りいたします。(生物応用化学科主任教授)

社会人5年生



吉田 佳子(旧姓：宮本)

卒業と同時に大阪大学工学部に文部技官として就職、2年後、結婚を機に川崎市役所に転職しました。現在は川崎市役所建設局下水道管理部水質指導担当に所属しています。主な仕事は工場排水等の分析で、持ち込まれた試料が排水基準を満足しているか検査をしています。検査の結果によって工場の操業停止を含む行政指導が行われるため、環境六法などの法令集とにらめっこをしながら公定法に基づく試験を行っています。

昨年にはO-157やクリプトストリジウム、今年は環境ホルモンと水環境に関わる問題が次々と浮上しています。特に環境ホルモンについては現在、環境庁や建設省を中心に様々な調査、研究がおこなわれています。いずれ、その中の幾つかが環境基準の項目に繰り入れられる可能性があり、私たちも文献などを集めているところです。

川崎市で働き始めて3年目になります。今では職場で殆ど関西弁を使わなくなりました。東京での暮らしは大変便利で、大阪はやっぱり田舎なのかなと思うときもありますが、やっぱり食べ物は関西が一番です。実家に帰る度にむくむく太っていく自分が悲しい・・・

(生応化・平成6年卒・川崎市役所)

ロジン開発に携わって



尾上 祥章

修士課程を修了し、はや半年が過ぎました。現在、私は荒川化学工業株式会社化成部品でインキ用樹脂の開発に携わっています。この会社では、ロジン(松脂)に代表される地球に優しい素材を通して、製紙用製品、インキ、接着剤といった化学分野から食品の分野まで幅広い分野で製品を製造しています。主に中間製品を扱っており、さらに各メーカーで加工されて市場に出されますので、みなさんが製品の中に「荒川」の名前を見ることはほとんどないと思います。しかし、例をあげると、チューインガムの基礎となっているのも、実はこのロジンなのです。

私自身もこのようなロジンの様々な用途に驚き、その扱いの難しさ、可能性の深さ等を毎日肌で感じながら仕事をしている次第です。

今、世の中では、環境汚染が問題視され、汚染につながる化学物質が数多く指摘されています。そうした中で、地球に優しいロジンを扱うこの仕事に誇りをもって、今後も多くの経験を積んでいきたいと思っています。

(生応化・平成8年卒・荒川化学工業株)

事務局年報 ('97・10~'98・9)

97年10月・第14号会報を郵送（7日）、学内配布（15日）。
11月・第1回キャンパス交流会「セミナー・懇親パーティー」を学術総合情報センターにて開催（1日）。本年2回目の終身会費督促状を発送（18日）。第3回桜植栽募金小委員会に都築・人見両理事出席（25日）。
12月・工学部主催の大阪市大国際シンポジウムに50万円を寄付（1日）。第1回キャンパス交流会参加者へスナップ写真を発送（5日）。谷口修（電気・32年卒）氏の告別式に弔電（8日）。学外理事・評議員に市大広報第34号を発送（20日）。

98年1月・松田猛（土木・31年卒）氏の告別式に弔電（8日）。第4回桜植栽募金小委員会に都築・人見両理事出席（14日）。山田正一郎講師（電気）の告別式に弔電・献花（16日）。第13期第3回理事会にて97年収支決算を了承、桜植栽募金への勧誘状・特別基金預金先の一部変更・終身会費の改正額等を審議（30日）。
2月・第3回理事会欠席者に同理事会報告を発送、関西広済堂に名簿郵便番号の7桁変換を発注（6日）。真嶋光保助教授（土木）の告別式に弔電・献花、田口政幹（機械・23年卒）氏の叙勲祝賀パーティ（3月2日）に祝電（27日）。
3月・工学部送別式・鏡割りに廣岡会長・溝神建築学会会長・他理事有志が出席、匿名会員の寄付金（120万円うち指定分約100万円）を受納（24日）。98年入学手続学生に当会の案内と会費払込みを要請（14・26日）。桜募金委員会が募金趣意書等を発送開始（29日）。事務局に

パソコン一式を導入（30日）。

4月・中央公会堂にて母校の1998年度入学式挙行（6日）。

5月・市大広報第35号を学外理事・評議員に送付（15日）。第107回市大ボート祭にアドバルーン協賛・廣岡会長が来賓出席（23・24日）。事務局に会員データ管理システムを導入（25日）。

6月・川埜清（電気・32年卒）氏の告別式に弔電（19日）。第15号会報の編集委員会（26日）。

7月・事務局補助員（水・土に出勤）の安枝引枝さんの後任に元工学部事務職員を採用（11日）。未納会費の督促状を発送（15日）。第13期第4回理事会にて第2回キャンパス交流会（10月31日）、第11回評議員会・同窓懇親パーティ1999（99年2月5日）の開催を決定（17日）。第4回理事会欠席者に同報告書を発送（22日）。第2回キャンパス交流会の講演テーマのアンケート調査状を発送（31日）。

8月・第15号会報の印刷・製本を河野印刷に発注（17日）。アンケート結果にもとづく講演テーマの選定と講演依頼者のリストアップ（24日）。第15号会報の初校開始（25日）。

9月・安藤昌範（建築・昭和31年卒）氏の告別式に弔電（11日）。市大広報第36号を学外の理事・評議員に発送（14日）。第15号会報の校正完了（18日）、製本完了（30日）。

桜植栽募金に、ご協力下さい

桜並木のあるキャンパスで、2000年（平成12年）の母校創立120周年を迎えるべく、この3月に全学的な桜植栽募金を始め、9月10日現在、約3750万円の醸金を頂きました。目標額を達成するため、貴殿にも是非ご協力をお願い致します。

大阪市立大学同窓会連合会会長 吉村 茂夫
工学部同窓会会長 廣岡 孝一

※募金趣意書・払込用紙が送付されてない方、紛失された方は、
工学部同窓会事務局にご請求下さい。

工学部の電話番号[06-605-(下記番号)] (1998. 9. 1. 現在)

機械工学科	電気工学科	応用化学科	建築学科	土木工学科	応用物理学科
福田 武人 2660	鈴木 裕 2676	小槻 勉 2693	谷池 義人 2764	園田恵一郎 2722	美馬 宏司 2742
元木 信弥 2661	南 繁行 2760	澤井圭一郎 2694	木内 龍彦 2706	小林 治俊 2723	曾我部 伸 2740
逢坂 勝彦 2962	黒田 輝 2787	五百井正樹 2977	谷口 徹郎 2707	鬼頭 宏明 2723	藤井 康夫 2738
野邑 奉弘 2663	志水 英二 2678	小澤 文幸 2884	坂 壽二 2708	高田 直俊 2724	西村 仁 2739
西村 伸也 2664	高橋 秀也 2679	南 達哉 2980	藤本 益美 2989	東田 淳 2725	中山 正昭 2739
伊畧田浩志 2963	重田 和夫 2761	圓藤紀代司 2698	那谷晴一郎 3076	大島 昭彦 2996	北田 忠義 3080
東 恒雄 2666	青笹 正夫 2680	松本 章一 2982	谷口与史也 2709	山田 優 2727	金 大貴 3087
加藤 健司 2665	草開 稔 2681	米澤 義朗 2770	成瀬 哲生 2710	貫上 佳則 2728	森 雄三 2743
脇本 辰郎 2965	田中 健司 2681	朝見 賢二 3080	西岡 利晃 2992	西村 昂 2730	増岡 俊夫 2879
南斎 征夫 2667	松下 賢二 2792	米谷 紀嗣 2984	新居 洋子 2711	日野 泰雄 2731	三村三木夫 2880
吉岡 真弥 2967	中川 吉郎 2878	山田文一郎 2797	大倉 良司 2711	小田 一紀 2732	小村 中 3095
川上 洋司 2668	宮崎 大介 2877	三浦 洋三 2798	多胡 進 2712	角野 昇八 3078	小林 勝弘 2768
上神謙次郎 2662	建部 涉 2687		杉山 茂一 2713	重松 孝昌 2733	寺井 章 2748
若林三記夫 2969			徳尾野 徹 2713	中井 博 2734	高根 美武 3090
守田 栄之 2671			土井 幸平 2715	北田 俊行 2765	
瀧山 武 2672			赤崎 弘平 2717	山口 隆司 2735	
高田 洋吾 2970			中村 仁 2716		
			三木 信博 2993		
			西岡 真稔 2718		

情報工学科	生物応用化学科	事務室等
濱 裕光 2772	仲矢 忠雄 2782	教務係 2653
柳原 圭雄 2773	笠井 佐夫 2783	庶務係 2651
前川 義治 2763	北村 昌也 3091	図書分室 2657
細川 省一 2683	加藤 鏡治 2699	守衛室 2096
岡本 次郎 2684	大嶋 寛 2700	
中島 重義 3096	東 雅之 3092	
辰巳 昭治 2688	玉垣 誠三 2695	
北村 泰彦 3081	長崎 健 2696	
藤原値賀人 2689	山内 清 2703	
岡 育生 2779	北條 裕信 3094	
村治 雅文 2976	立花 亮 2702	
村田 正 2795	荻野 健治 2799	
杉山 久佳 2796	串部 宏之 2747	

編集後記

この処、日本各地で異常な集中豪雨による被害が頻発しておりますが、会員の皆様には悪影響の残らなかったことをお祈りする次第です。

また、日本の経済は、戦後最悪の金融不安とデフレ状態に陥っているとされており、ご健闘なさっていらっしゃるでしょうか。

さて、1998年3月にご定年で退職された4名の恩師のうち、笹沼道雄(応物)と木下雅悦(生応化)の両先生にご寄稿いただきました。また、西村仁新工学部長と8学科の主任教授の報告および正会員17名の短信をご投稿願いました。是非ご一読下さい。

来年は、4年振りの会員名簿(第9号)を発行する予定です。第16号会報の発行は2000年(平成12年)になります。その節にはご協力をお願いします。

なお、本号には、本年10月31日の銀杏祭中の「キャンパス交流会」と、来春2月5日の「同窓懇親パーティー1999」のご案内を掲載しました。クラスや同好会OBの集い等にご活用下さい。

ところで、本年3月下旬に依頼のあった桜植栽募金にはご醸金頂きましたでしょうか。このチャンスに、是非母校支援にご協力下さい。(M. H生)

編集委員

南斎征夫(機39) 建部 涉(電35) 大嶋 寛(化49)
赤崎弘平(建45) 小林治俊(土45) 美馬宏司(物34)
人見宗男(機31)

1998年卒評議員

新評議員(1998年卒)は以下のとおりです。
クラスメートの各位はよろしくご協力下さい。

学 科	1998年卒評議員名
機 械 工 学	伊東 貴司・瀬戸 圭介
電 気 工 学	北川 哲也・谷川 和彦
応 用 化 学	大里 剛史・尾山 雄一
建 築 学	作間 慶彦・藤井 章男
土 木 工 学	富田 純子・堀口 稔晴
応 用 物 理 学	西野 誠・森 ころろ
情 報 工 学	土井 祐司・林 幸雄
生物応用化学	城本 崇広・中西 猛

《 第 2 回 キャンパス交流会 》

★日 時：1998年（平成10年）10月31日（土曜日）午後2時30分～午後6時

★講演会 [午後2時30分～4時20分、工学部A棟1階、階段教室]

1) “毒蛇と血圧”

山本 研二郎 先生（本学名誉教授・前学長）

2) “21世紀の技術と日本経済”

星野 芳郎 先生（本学非常勤講師・元帝京大学教授）

★懇親会 [午後4時30分～6時、工学部B棟4階、422号室]

（会費：3500円、但学生は2000円）

申込方法

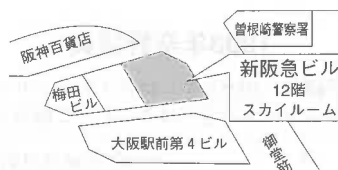
①氏名（専攻学科・卒業年）、②講演会への出欠、③懇親会への出欠を、
10月23日（金）迄に同窓会事務局へご連絡下さい。

〔 申込先：〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138 〕
大阪市立大学工学部同窓会事務局

《 同窓懇親パーティ1999 》

☆日 時：1999年（平成11年）2月5日（金曜日）午後6時40分～8時30分

☆会 場：新阪急ビル・12階、スカイルーム
（TEL：06-345-4127）



☆会費：7500円、（但学生は3000円）

申込方法

氏名（専攻学科・卒業式）を平成11年1月25日までに、
工学部同窓会事務局へご連絡下さい。

桜 植栽募金にご協力下さい